

平成26年度予算見積調書

課室名：文化振興課
 担当名：総務・財団担当
 内線：2877

(単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業		
B22	県立文化会館施設整備事業費			一般会計	総務費	県民費	文化振興費	県立文化施設整備事業費		
事業期間	平成26年度～	根拠法令	なし	戦略項目						
				分野施策		050101 文化芸術の振興				
<p>1 事業の概要</p> <p>埼玉会館は昭和41年の開館後、平成16年に耐震工事が行われた以外は本格的な改修工事がされていないため、経年劣化が著しくなっている。その中で、平成25年度は、緊急性が高い大小ホールの照明・音響関係設備について改修予算が認められ、工事を進めている。</p> <p>平成26年度は、全体改修工事の設計と分割工事が可能な昇降機設備改修工事と大ホール連結椅子の改修工事の設計を実施する。</p> <p>(1) 埼玉会館改修工事設計費 116,003千円 (2) 昇降機設備等改修工事費 128,615千円</p> <p style="text-align: right;">合計 244,618千円</p>				<p>5 事業説明</p> <p>(1) 事業内容</p> <p>ア 埼玉会館改修工事設計費 116,003千円 ・工事期間は2か年度事業</p> <p>イ 昇降機設備等改修工事費 128,615千円 ・埼玉会館のエレベータ3機、ダムヴェーター4機の交換工事</p> <p>(2) 事業計画 平成26年度 ・埼玉会館の全体改修工事の設計、・昇降機設備</p> <p>(3) 事業効果 埼玉会館は昭和41年の開館であり、経年劣化が著しい。全体改修工事を行うことで、文化施設としての機能を維持し、利用者の安全安心を確保することができる。特に、昇降機は設置後17年～20年を経過し、故障が生じている。大ホールの座席も平成8年度に設置されたものであり、老朽化が進んでおり、早急な改修が必要である。</p> <p>・改修工事を行うことにより、建物躯体の寿命を大幅に延ばすことができる。元々、コンクリートの上にタイルを張っている埼玉会館の構造は、コンクリートの劣化が抑えられている。今回の改修で、タイルが浮いている部分や劣化しているコンクリートの補修を行うことで、長期間の使用が可能となる。</p> <p>・設備は、空調・給排水・電気関係を中心に更新する予定である。これにより、効率的な空調が可能になるとともに設備の維持管理経費の軽減も可能になり、指定管理委託料の削減を千万円単位で見込むことができる。</p> <p>・今回の改修は、著名な建築家である前川國男氏の設計を生かしながら行う。外観は従来の埼玉会館の特徴を維持し、建物内部や設備関係は最新のものにする。前川國男氏の設計では木村産業研究所(1932年)と国際文化会館(1955年)が国登録有形文化財に指定されており、埼玉会館も築50年を機に、指定を目指したい。</p>						
2 事業主体及び負担区分 (県10/10)										
3 地方財政措置の状況										
4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×0.5人=4,750千円										
予算額		財 源 内 訳							一般財源	前年との 対比
		県債								
決定額	244,618	244,000						618	186,040	
前年額	430,658	430,000						658		